



かわらぶきはきっかけのひとつ。
経験を通して、建築の知見を広げてほしい。

西日本で最も古い歴史を有する福岡県立福岡工業高等学校は、創立122年を迎えた伝統校。高い教育水準をもつ工業高校と知られ、産業界や大学から高い評価を得ています。ここ数年、マイスター制度も活発に利用し、授業だけでは得られない経験の場をつくりだす当校。ものづくりの人材育成に向けた活動が評価され「ものづくり日本大賞 文部科学大臣賞」を受賞しています。今回は、さらにマイスターから日本伝統の「かわらぶき」を学ぶため、実技指導の時間を設けました。

ものづくりマイスター派遣先学校

■ 福岡県立福岡工業高等学校

所在地 福岡県福岡市早良区荒江2-19-1
学科 染織デザイン科、建築科、機械工学科、
機械工学科工業進学コース、情報工学科、
環境化学科、電気工学科、都市工学科、電子工学科

設立年 明治29年
在校生数 1156名



屋根や瓦から、建築の面白さを味わう。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

高校生という多感な時期だからこそ、
プロの仕事に触れることが大切だと思います。

ものづくりマイスター制度を知ったのは、今から約5年前。学校長から「建築関係のプロの方に、指導を直接受けられる機会があるんだけど、授業で取り入れてみない？」という提案をもらい、利用をはじめました。それからこれまでに、建築大工や電気溶接、普通旋盤とさまざまな職人さんの実技指導を受講。今回は、屋根や瓦に関する学びを得て欲しいと考え、かわらぶきのプロをお招きし、基礎的な知識を教わりながら実技指導を賜りました。先生としてお越しいただいたのは、全日本瓦工事業連盟の青年部長を務める宮原マイスター。屋根工事会社の社長さんであり、当校の建築科卒業生でもあります。当日、生徒は実際のかわらぶきを体験。身をもって学ばせていただきました。私を感じるこの制度の良いところは、指導で得た知識が実際の現場ではどのように活用されるのかを、五感を使って学ぶことができる点だと思っています。高校生という多感な時期に、楽しみながら学びつつ、知見を広げてほしい。それが私たち教員の願いです。



福岡県立福岡工業高等学校 建築科
実習助手 三角由紀子さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：1回 受講者数：建築科40名
実施場所：福岡県立福岡工業高等学校 建築科実習棟 木造実習室



プログラム内容

- ・瓦の種類、特性の説明
- ・屋根の構造、特性の解説
- ・架台の準備
- ・下葺材、屋根瓦の施工
- ・電気工具を使用した瓦の打ち付け



教育プログラムの解説

事前に学校側で用意した屋根の架台を用いて、実際の施工手順と同様にイチからかわらぶきを体験してもらいました。防水紙の貼り付け、瓦の引っ掛け、木材への打ち付け、など一通りの実技指導を実施。また、手を動かしながら、瓦の特徴や葺く際のポイント、各種道具の正しい使用方法などに取組みます。積極的に実習に取り組む姿がみられ、しっかりと技能・知識を教えることができたと思います。

座談会
INTERVIEW

ものづくりマスター × 受講生
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_右)

宮原 正治さん

昭和45年生まれ
平成7年度 1級技能士「かわらぶき(かわらぶき作業)」取得
平成20年度「瓦屋根工事技士」取得
平成23年度「瓦屋根診断士」取得
平成28年度 厚生労働省ものづくりマスター「かわらぶき」認定

福岡を拠点に地域に根ざした事業を展開する、有限会社宮原窯業の代表取締役。職人歴27年。京都で有名な瓦工事で修行をしたこともあり、国の重要文化財や寺社仏閣などの屋根工事に携わった経験を持つ。



受講した受講生 (写真_左から2番目)

西村 珠希さん | 建築科2年生

スペースデザイン部に所属。部内ではコンベアに属し、設計図面の作成や模型の制作を行う。

受講した受講生 (写真_右から2番目)

後藤 蓮さん | 建築科2年生

同じく、スペースデザイン部・木工班に所属。様々な木材加工を通して技能を習得中。

受講した受講生 (写真_中央)

山口 泰成さん | 建築科2年生

スペースデザイン部員の木工班として、木材加工や家具製作などを手がけ腕を磨く。



一つひとつ、経験を重ねることで、未来は、大きく広がっていく。

屋根の構造は知っている。
でも、屋根の造り方は知らない。

宮原さん 僕はかわらぶきのマスターとして、いろんな学校で講習をしているんだけど、最近は建築を専門とする学校や学科でも、「かわらぶき」の実技演習をするところは少ないみたいです。みんなも理論は授業で学んだことがあるけれど、実際にやってみるのは初めてだったんでしょ？

西村さん そうなんです。授業では屋根の造りや構造のことを勉強するんですが、かわらぶきのやり方は知らなくて。瓦を持つこと自体が初めてでしたね。実習のとき「あ、瓦ってこんなに重たいものなんだ」と身をもって体感しました。
山口さん 生徒みんなで木組みした架台に、瓦を葺いていく。事前のイメージでは、テンポよく順々と瓦を並べていけそうな気がしたんですが、やってみ

るとすごく難しい。時間をかけても、なかなかきれいに揃わなくて…。すごく苦戦しました。

後藤さん それに引き換え、マスターのスピードはめちゃくちゃ速かったよね！手際の良さ、ビス留めの正確さ、全体的な美しさ。自分たちの数十倍の要領で作業する姿をみて、素直に感動しました。かわらぶきの仕事をここまで間近で見学したことがありませんでしたから。



楽しもうとする姿勢があれば、知識は広がっていく。

宮原さん まずは、体験してもらって、知ってもらって。そんなきっかけを与えることが、私たちの業界にとっては大切だと感じています。瓦や屋根に対する知識不足は、建築自体をダメにする可能性がある。安心安全な家を建てるために、未来を担う学生たちに、正しい知識を伝えていきたいですね。

後藤さん 屋根ってどんな風につくられているのか、かわらぶきってどんな手順で行うのか、身近な存在なのに知らないことがたくさんあって。すごく勉強になりました。

西村さん 指導を受けてからは、建物を設計するときや模型をつくる際に、屋根の構造を意識するようになりましたね。自分がイメージする屋根は本当に実現できるのか、なんて。

山口さん そして何より、楽しかったです！家に帰ってお母さんに「今日、かわらぶきを体験したんだよ〜」って自慢しちゃいました(笑)。

宮原さん うん、それが一番！みんなが楽しく学んで、少しでも興味を持ってくれたら、私たちも教えがいがあります。高校生たちは、みんな素直でかわいい。キラキラした目で貪欲に物事を吸収してくれる。私もエネルギーをもらえますね。

かわらぶきから、
建築業界の未来を築く。

後藤さん 自分は将来、現場で手を動かす職人になりたいと思っています。これまでは漠然と、父のような壁紙職人や建築大工を志していましたが、今回、かわらぶきの仕事を体験してみて、将来の選択肢が広がったように感じます。

山口さん 自分も。マスターには申し訳ないのですが、これまで瓦への興味ってほとんどありませんでした。でも実際に体験してみると仕事自体面白かったですし、難しいことをテキパキ捌く、職人さんがすごくカッコよく見えました。

西村さん 私の学校はかわらぶきだけでなく、これまでさまざまな技能をマスターから学ぶことができました。普通の高校ではできない、工業高校だから

できる体験がある。これからも、広く深く、専門性を高めてみたいと思いました。

宮原さん みんな、よく言った(笑)！こういった一つひとつの経験を重ねて、自分にピッタリ合う仕事を見つけてもら

えたら嬉しいな。それは、かわらぶきでも、そうでなくてもいい。楽しんで、建築を好きになって、将来的により良い仕事に携わってくれたら。受講生たちの未来が大きく広がる場になれば、嬉しいですね。



受講生が製作したモックアップ(建築模型)